

新婦人しんぶん

新日本婦人の会目的

- ☆核戦争の危険から女性と子どもの生命をまもりまします。
- ☆憲法改悪に反対、軍国主義復活を阻止します。
- ☆生活の向上、女性の権利、子どものしあわせのために力をあわせまします。
- ☆日本の独立と民主主義、女性の解放をかちとりまします。
- ☆世界の女性と手をつなぎ、永遠の平和をうちたてまします。

今週の紙面

- 2面 ニュース/見解 「年収の壁」をめぐって
- 3面 読者/まんが/俳句
- 4面 健康体操/ホット
- 5面 憲法講座/ホット
- 6面 塩麴スープ/母の歴史
- 7面 新婦人/主張/老いた母と向き合う



茨城・取手市 瀬田初枝

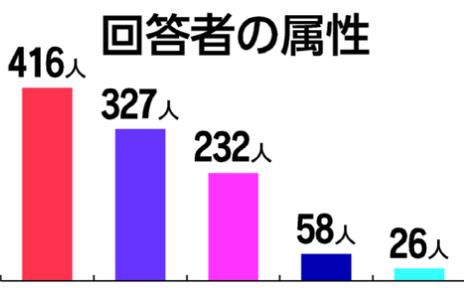
新日本婦人の会は国連に認証されたNGOです

自宅の居間で娘(高一)と(本文とは関係ありません)



新婦人緊急不登校アンケートに1123人

聞いてほしい 不登校の実態



回答者の属性は、その他、地域の人など316人(複数回答)

41万5千人。10月、文科省が公表した小・中・高の不登校児童生徒数は過去最多になりました。年々増え続ける不登校の児童生徒とその保護者が求める支援や対策は、新婦人中央本部が11月1〜6日にかけて行った不登校についての緊急アンケートは、短期間に1000人を超える声が寄せられました。

経験者から

アンケートには保護者を中心に過去に不登校を経験した当事者を含め45都道府県1123人からの回答が寄せられました。一番多いのは小学生の保護者で37%(左)、中学生、高校生の保護者、本人らの声と望む支援、対策、今悩んでいる人への経験者からのメッセージが寄せられました。現在不登校と回答した人の期間は、「1〜3年未満」が35・7%と最も多く、「6年以上」という回答も8・8%ありました(下)。

不登校離職も

今回の調査で浮かび上がったのは、子どもの不登校による保護者の経済的負担です。一つは、子どもが家にいるので保護者が仕事を続けられない「不登校離職」です。さらに、子どもが日中家にいるため食費やリーススクール利用料などで出費が増えるなど、経済的に



今回、不登校アンケート

教育研究者有志の一員としてとりくんだ少人数の学級を求める署名運動(2020年)、そして「教員の長時間労働に歯止めを」と署名(2023年)でも、「新日本婦人の会」のみなさまには本当たたくさんの署名を集めていただきました。

聞こえてくる「悲鳴」 声を集め力を合わせるとき

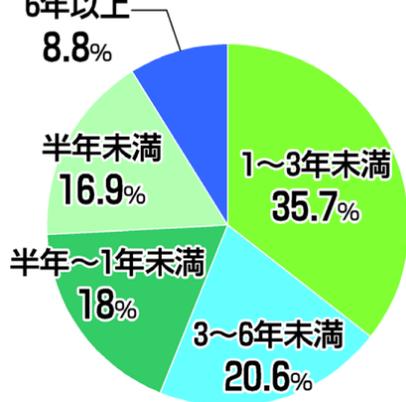
桜美林大学教授 中村雅子さん

どもに勉強を「詰めこむ」先生に仕事を詰めこむ」という「三つの詰めこみ」の問題を指摘してきたのです。先生には「笑顔」

や「個性」が必要です。先生が生きたいと仕事をし、子どもが楽しく学ぶことをみんなが願っています。

学校の外での子どもの時間、遊びや学びが親の経済状況に関わらず公的に保障されなければならぬことも、アンケートは明らかにしています。社会全体で子どもを大切にすることを「夢」で終わらせないために、今こそ、声を集め力を合わせなければなりません。(民主教育研究所代表運営委員、教育のつどい実行委員会代表委員)

不登校の期間



グラフはいずれも緊急アンケート「不登校について聞かせてください」新日本婦人の会中央本部(2024年11月)より

追い込まれる実態が見えてきます。「仕事との両立ができていない」「仕事を辞めると収入がなくなる可能性もあります」。

「リーススクールの学費が月6万円弱。給食は

なく基本弁当。送迎が必要なので仕事にも影響が(沖繩)リーススクールの利用料と行っていない学校の支払いが負担。仕事を辞め、基本夫の収入のみなので貯蓄がほとんどゼロ(島根)オンラインスクールは月3万3000円。何の補助もなく自己負担が大きい(山梨)金額が高すぎて通わせられない(青森)など、リーススクールの学費には補助がない現実が浮かび上がります。(2面へ)

新婦人しんぶんの年末年始の発行について

年内の新婦人しんぶんの通常発行は12月21日号が最終となり、12月28日号は休刊です。新年号(1月4日と11月11日の合併号12頁建て)は12月22日(日)の週に届きます。1月の通常号は18日号からになります。

編集部

